

道の関与団体見直し

統廃合に大号令スリム化進まず

補助金支出、逆に増加

役職削減絡み難航も

道が出資や補助を行っている関与団体の見直しで、行政改革の難しさが浮き彫りになっている。活動が類似したり、意識が薄れた団体を統廃合し行政のスリム化を図る試みだが、組織を統合したのに道の補助金が逆に増えたり、役員ポスト削減が絡んで統合が難航するケースもみられる。これまでに八団体が削減され、数字上は成果が出ているものの、今後は統合の「中身」も問われそうだ。(政治部 久保田裕之)

新たに1億円

「そういうのを焼け太りというんだ」。今年一月道が市民活動への情報提供や人材育成などを目的とした市民活動促進センター(仮称)を新年度に設立する構想が明らかになると、札幌のある民間非営利団体(NPO)の幹部は、こうかみついた。

道は一九九九年、道コミュニティ運動協会と道ボランティア振興協会を統合する計画をまとめた。さらに、NPOの相次ぐ設立など市民活動の活発化に合わせ、新年度に市民活動促進センターを開設、両協会を統合してつくる財団法人に運営を委託する方針を決めた。

だが、統合後も両協会が行ってきた事業が継続するため、道は毎年両協会に支出してきた補助金、合わせて約一億三千万円を新年度も続ける方針。

さらに、センターの運営委託費として、新たに約一億円を補助する方向で検討中だ。

これに対し、市民団体などは「行政のスリム化につながっていない」などと反発。民間のNPO支援組織、北海道NPOサポートセンターは、促進センターのあり方について「官主導よりも民間と協力するほうが望ましい。われわれのノウハウも生きるし行革にも役立つ」と協力を申し出た。支出が増えることについて道は「市民活動支援という新たな役割が加わったため」(環境生活部)とし、平行線をたどったまま。あるNPOは「二協会には道のOBもいる。本気で行革などやれないのでは」と冷ややかに見ている。

“民間並み”カギ

道内の産業技術開発を支援する道地域技術振興センター(HOKTAC)と、道科学・産業技術振興財団(ホクサイテック)も現在、統合準備を進めている。ただ、統合予定の四月が間近に迫っているものの「まだ実務者協議の段階」(道総合企画部)

ある道幹部は「HOKTACは道経連名誉会長の戸田一夫氏をはじめ、役員に経済界の要職についている人が並び、ホクサイテックも元北大学長の有江幹男氏らが名を連ねる。役職ポストの統合も難しい問題になっているのでは」とみる。

一方で、こんな例もある。道は、道中小企業振興公社と道商工指導センター、道中小企業振興基金協会の三団体を、新年度に新設する道中小企業総合支援センターに統合することを決めた。計画では、常勤役員は現在の八人から六人に減り、道からの派遣職員四人も引き上げる予定。予算面でも従来業務に新たな事業が加わったものの、既存事業の見直しで従来と同額に抑え込んだ。効果が上がりそうな背景には、「統合組織が膨張するなど、この時世に道民が許すはずがない」(経営金融課)との思いがあった。リストラが激しさを増す民間を意識した危機感があるかどうか、団体統合のキーポイントのようだ。

主な統合実施済み団体

北方圏センターと道青年婦人国際交流センター(1998年統合)

道私立専修学校各種学校基金協会(1999年に道私立専修学校連合会に統合)

道生乳検査協会と道乳牛検定協会(1999年に統合)

主な廃止済み団体

道給仕教育資産(1998年廃止)

道生薬公社(1996年廃止)

道国際医療・産業複合都市建設推進協議会(1999年廃止)

主な団体の統合予定

道中小企業振興公社と道中小企業振興基金協会、道商工指導センター(2001年4月)

道ボランティア振興協会と道コミュニティ運動協会(同)

道科学・産業技術振興財団と道地域技術振興センター(同)

北方圏センターと北方圏交流基金(未定)